



敬愛幼稚園／敬愛中学校／敬愛高等学校

〒 800-0035 北九州市門司区別院 6 番 1 号

中・高 TEL 093-381-3537 FAX 093-391-8049

幼稚園 TEL 093-371-2267 FAX 093-391-9385

敬愛小学校

〒 800-0057 北九州市門司区大里新町 1 1 番 7 号

TEL 093-381-0611 FAX 093-381-0601

第46回 九州アンサンブルコンテスト

復興のハーモニー

《第44回 全日本アンサンブルコンテスト予選》

主催 九州吹奏楽連盟
九州各部門別吹奏楽連盟 朝日新聞社



(C) 大阪フォトサービス

いっしょ

わたしたちは、他人の不幸によってではなく
他人の幸福によって生きたいのです

チャールズ・チャップリン

人は誰しも幸せを求めて生きているのだらうと思いま
す。夢や目標を掲げ、理想と現実との隔たりに悩み苦し
みながら、より良い未来を求めて努力します。そして、満
足できる成果が得られると幸せを感じます。ただ私たちは、
自分自身の幸せには敏感でも、他者の幸せについてはそ
うでもないようです。

さて、今年の節分は一八九七年以来、一四四年ぶりに二
月二日になったということで話題になりました。節分
には、「鬼は外、福は内」と豆まきをする習慣がありますが、
外に追い出された鬼はどこへ行くのでしょうか。私が追
い払った鬼が、隣の人のもとに行ったらといたら……。逆に、
他の人の所にいた福を私が奪っていたとしたら……。

自分を中心にして、自分の都合でしか物事を考えられな
い私です。知らず知らずのうちに、人を傷つけ辛い思いを
させてしまっていることがあるのかもしれない。状況に
よっては、追い払うことのできない鬼のような心が露わに
なることもあります。だからこそ、そのような心のあり様
をしつかりと受け止め、常に自分自身を振り返り、その生
き方を見つめ直していくことが必要なのだと思います。

私たちは、他者の支えがなくては生きていけません。あ
らゆるものが私のいのちを育み生かしてくれています。そ
の事実が気づかされるとき、自らにのみ向いていた視点が
少しずつ周りへと向けられ、私の目に映る世界が広がって
いくのでしょうか。さまざまなつながりの中で、限らない支
えの上に成り立つ人生であるなら、どんなときも他者と共
に、誰もが幸せに生きることのできる道を求め続けていき
たいと思います。

敬愛高等学校

第71回卒業証書授与式

校長式辞

卒業生の皆さん、卒業おめでとう。みなさんにとって、この高校三年間はどのようなものでしたか。高校入学時に思い描いていた三年間でしたか。それとも想像もしていなかった三年間でしたか。この敬愛高等学校で過ごした年月の間には、様々な出来事があったことと思います。楽しかったこと、つらかったこと、悲しかったこと、皆さんひとりひとりの経験や思い出は違うことでしょう。すべての日々が、今日を迎えることができた糧になっていると思います。経験から学びがあり、その学びが成長を促します。とはいえ、一年前からの新型コロナウイルス感染拡大は、私たちの生活にはかりしれない困難とつらさをもたらしました。修学旅行・海外研修を直前に中止せざるを得ない決断には、とても楽しみにしていたみなさんの気持ちを思うと、なぜこんなにつらい思いをさせなければならぬのか・・・と非常に心を痛めました。その後の臨時休校では、学びを止めないようにと手探りの中、遠隔授業を実施いたしました。生徒たちはどうしているだろう、生徒たちに何をしてあげられるのかと教職員みんなが常に考え続けていきました。新しい学年が始まったというのに、みなさんと顔をあわすことができないもどかしさを感じながら、学校再開への準備を進めていきました。昨年6月の学校再開後も、残念ながら敬愛祭をはじめとする学校行事を行うことはできませんでしたが、卒業へと確実に時は流れていきました。



その間、みなさんは制限された学校生活で不安の中、それぞれの進路を目指し、粘り強く頑張ってくれました。10月に行われた学年行事では、久しぶりにみなさんが友人たちと楽しそうにしている姿を見て、私もうれしくなりました。

新型コロナウイルス感染拡大は、これまでの生活様式や既成のものの考え方、価値観を大きく変えていく結果となりました。新しい生活習慣のもと、当たり前のことが当たり前でない日常を受け入れざるを得ないつらさやもどかしさを感じていると思います。しかし、以前もみなさんにお伝えしましたが、この未曾有の事態に対してすべて負に捉えるのではなく、学ぶべきところはないだろうか考えることも大切な事ではないでしょうか。この

ような困難に直面した時、わたしたちは何を考えますか。何とかしなければいけない、少しでも心地よい状態を目指そうとします。わたしたちには知恵があります。どうすれば問題を解決することができるか考える力を持っています。プラスの面を見つければよいとすることやポジティブに物事を考えようとする姿勢を持つことは、次のステップへの活力を生み出してくれます。何気ない日常が、実はかけがえない大切な日々であったということに気づかされたのも事実ではないでしょうか。新型コロナウイルス感染拡大の経験は、わたしたちに予測不可能なこれからの時代を生きていく覚悟を問われたように感じます。

さて、これからみなさんが歩みだす社会は、この先大きく変化していくといわれています。AI技術の発達により、今ある仕事の多くがなくなってしまうとも言われ、今回のコロナ禍はそれを加速させるのではないのでしょうか。しかし、AIやロボットが高度になればなるほど、人間は人間にしかできない、人間の強みがあります。相手を思うところや優しさ、ぬくもりは人間の持っているすばらしい感性です。そこからお互いの信頼関係が生まれます。今、座っているとところから周りを見てください。そこにはすばらしい仲間がいまいます、先生がいまいます、そして見守ってくれている保護者の方がいます。10年後20年後に何が待っているのか、だれも見えないような未来が待っているかもしれない。しかし、みな

さんは一人ではありません。多くの人たちが支えになってくれると思います。みなさんも多くの人たちの支えになってください。みなさんはこのコロナ禍を乗り切ろうとしているたくましい世代です。どんなに時代が変わっても、広い視野を持って、自ら考え、自ら判断し、自ら行動することができると思います。みなさんのご卒業を心からお祝い申し上げます。式辞といたします。

令和三年二月十五日

敬愛高等学校

校長 日高 克巳



答 辞

寒暖差の激しい日々が続く中、時折春の日差しが感じられるようになった今日、私たちは敬愛高校を卒業します。

入学式のことを未だに鮮明に思い出せるほど、敬愛で過ごした三年間はあつという間でもとても濃い日々でした。今、私たち卒業生はみなそれぞれ、三年間の思い出を振り返り、感慨に耽っていると思います。

私は、この場を借りて、三年間お世話になった方々に感謝の思いを伝えます。

初めに先生方。いつも嫌な顔一つせず、親身に勉強を教えてくださいました。それだけでなく、進路や生活面での悩み事にも気にかけてくださり、学校でも頼れる大人が居ることに安心感を覚えました。私は高校三年生の夏に大幅に進路を変えたのですが、その決断に踏み切ることができたのは、先生方のこれ



までのサポートのお陰だと思っています。ありがとうございます。

次に三年間共に過ごしたみんなへ。高校生になって今まで以上に交友の幅が広がり、たくさんの新しい友達ができました。そして、本音でぶつかり合える友達もできました。こんな友達は、人生の中でもそう多くないと思います。辛い時も、苦しい時も、一緒に泣いて励ましてくれる友達がいたから、今日まで乗り越えることができました。みんなのお陰で頑張ろうと思えました。私は、みんなとくだらないことで盛り上がり、大笑いする時間が大好きです。喧嘩をすることもあったけど、テストの点数で勝負したり、夜遅くまで学校に残って語ったり、たまに羽目を外して一緒に雑巾がけを課せられたり。そんな日々のちよつとしたことも全部今の私の原動力となる思い出で、何より敬愛に来てよかったと思える一番の大きな理由はみんなと出会えたことです。みんな、仲良くしてくれてありが



とう。今までみたいに毎日会って、気軽に話すことはできなくなるけど、卒業してもずっと仲良くしてください。

最後にお母さん。何度も反抗したり、八つ当たりしたのに、今まで私を見捨てずに育ててくれてありがとう。お母さんは礼儀を大切に人、小さい頃から、挨拶やご飯の食べ方、言葉遣いなどを厳しく指導されていた。昔は注意されることが嫌だったけど、今になって人として、それがどれだけ重要なことかわかります。受験期には何度もお母さんとぶつかりました。酷いことも言ったのに、お母さんは毎日夜遅くに塾まで迎えに来てくれて、おいしいご飯を作って、部屋を暖かくして待っていてくれました。そんなお母さんの優しさが心に沁みました。伝えきれないほどの感謝の気持ちでいっぱいです。お母さんが私の母親でよかった。本当にありがとうございます。これからもずっとよろしくお願いします。



三年間で数えきれないほど多くの人と関わりました。迷惑をかけた人もたくさんいると思います。この学校に入学した三年前からちゃんと成長できたのか、自信はないけれど、今日胸を張ってこの敬愛高校を卒業できるのは、様々な人が私の背中を押してくれたからです。本当にありがとうございます。

学校に行って、勉強して、友達と過ごして、こんな当たり前だった日々がいざ終わるとなると、想像以上に悲しく、この日々が色あせていくのが少し怖いのです。これからは敬愛高校で過ごした思い出を胸に、私たち卒業生は、それぞれの進路に向かって精進していきます。敬愛高校、これまで本当にお世話になりました。

敬愛高校のこれからの益々の発展を願い、答辞と致します。

令和三年二月十五日

卒業生代表 武田 朋子



先頭集団の様子 / Leading Group

★コロナ禍で、行事が中止・規模縮小で行われる中、YouTube Liveでの配信！さすがです！自宅にいながら応援でき、またいつもは見れない外周での子どもたちのリアルな表情が見れてとても良かった

冷たい風が頬を突き刺す寒い1日でしたが、カメラの向こうからの声援に応えるように、ほとんどの児童が自己ベストタイムでゴールテープを駆け抜けました。保護者の方の感想の一部をご紹介します。

例年は、この日を保護者参観日とし、たくさんの声援をいただいていたが、新型コロナウイルス感染拡大を鑑み、ICT機器を利用したオンライン中継に切り替えました。保護者会役員の皆様にご協力いただき、2名の実況中継と保護者会会長の中継ランナーカメラを含めた7台のカメラで中継を行い、カメラを通して、保護者の皆様に参観をいただきました。



マラソン大会・縄跳大会をライブ中継

1月30日(土) 本校グラウンドとその外周コースを利用したマラソン大会を開催しました。持久走記録会からマラソン大会に変更して5回目の開催です。



小学校スクールライブ

です。

★司会の方や龍先生のお話も楽しく、聞き取りやすく素晴らしい中継でした。時代は変わったなあ...と、古いものも大切に、恐れず新しいものもどんどん取り入れ、進化していく敬愛小学校がすごいと感じています。

2月1日・2日には、縄跳び大会・長縄大会

もライブ中継を行いました。ミスにしても「できる！」とみんなで励まし合いながら、一致団結して集中して取り組む姿勢に感動しました。どの児童もこれまで練習してきた成果を発揮して、思い出に残る大会となったようです。

英語検定 合格多数



1月23日(土) 放課後に本校で英語検定試験を行い、2・準2・3・4・5級の各級に74名の児童が挑戦しました。検定前には、「英検WEK」と題し、全員で英検対策の問題に取り組んだら、2次試験の面接個別指導を行なったりと学校でも対策を行いました。現在、全校児童の約6割が英検を取得しています。

英検取得者数

2級	2人
準2級	8人
3級	26人
4級	46人
5級	52人
合計	134人

(令和3年2月現在)

修学旅行

11/18～11/19

コロナ禍のため、修学旅行を4月から11月に延期し、行き先も関西から広島方面に変更しました。原爆ドームや平和記念資料館、広島別院、宮島、錦帯橋等を巡り、日頃の学習を深めることができ、思い出に残る修学旅行となったようです。

特に広島別院では、ご法話を通して、改めて自分自身をみつめる貴重なご縁をいただきました。



特集 敬愛の教育 ZOOMを使った英語交流会

例年では3年生が京都女子大学英文学科の学生と京都で英語交流を行なっていますが、コロナ禍のため、今年は北海道・新潟・東京の学校とZOOMで接続して英語交流会を行いました。札幌日本大学中学校、上越教育大学附属中学校、東京成徳大学高等学校と敬愛小学校の4校118名の交流です。



中高生との交流ということで、とても楽しみにしていたようです。ZOOMのブレイクアウトセッションを使って、3名1組の約40部屋に分かれます。そこで他校の生徒と英語で自己紹介をした後、英語で質問をして交流を行いました。計3回の交流会を行いました。回数を重ねるたびに会話が盛り上がりつつあったようです。他校の生徒の感想から、「小学生の英語がすごかった。」「積極的に自ら話していたので、小学生はどんな英語が上達してくんだなあと感じた」と感想を寄せていただき、英語に対する自身も高まったようです。ご協力いただいた学校の皆様ありがとうございました。

幼稚園通信

オンラインで参観

毎年この時期に、年長さんは、幼稚園生活での英語教室の成果をお家の方に見ていただこうと、英語参観を行ってきました。しかし、今年度は、緊急事態宣言中ということで、園内での参観ができませんでしたので、オンラインの参観を行いました。

やはり、生の参観の方が良いように感じましたが、保護者の方からは、仕事を休まなくて済んだとのこと意見や、緊張していない普段の様子が画面から感じ取れてよかったなど、前向きなご意見もたくさん頂きました。参観の最後には、愛情たっぷりの英語の歌を披露し、お家の方に「I love you」を伝えることができました。

テーブルマナー

例年修園旅行として年長児が西長門リゾートホテルに泊まり、テーブルマナーの体験を行っていました。今年度は、県外への移動、また宿泊を避け、小倉北区の松柏園ホテルにて卒業記念行事としてテーブルマナー体験を行いました。

静かにフォークとナイフに奮闘する姿は愛おしく、成長を感じたひと時でした。これから先、たくさんのおいしいものに出会い、幸せを感じながら、心も体も大きくなって貰いたいと願う1日となりました。



マラソン大会

敬愛幼稚園では毎朝、5分ほどのマラソンをしています。音楽に合わせてそれぞれのペースで走り、体力、持久力の向上を目指しながら、朝の活力としています。

外での活動ということ、保護者の方にも応援に来ていただき、日ごろの成果を見ていただきました。にこにこ笑顔で手を振りながら嬉しそうに走る姿や、真剣に順位を競い合い、闘志をむき出しにして走る姿等それぞれの頑張っている姿を見ることができました。

自分の掲げた目標を達成することに注視し、そこに至る過程を大事にして頑張ってきたマラソン大会。それぞれのすがすがしい顔が印象的でした。

2位になり悔し涙を流すお友だちに、自分の1位のカードをあげてしまう・・・そんな温かなシーンもあり、2月の寒空の下でしたが、ぼかぼか、ほっこりしたマラソン大会でした。



連絡アプリバスキャッチを導入しました

3月より新しい連絡アプリの導入を行いました。バスの運行状況を瞬時に把握したり、到着をメールでお知らせしたり、出欠の管理もアプリから行え、検温管理や体調の自由記述など、大変便利とお声を頂いています。日々子育てに忙しいママたちの隙間時間の確保に役立ち、職員の業務のスマート化も図ることが出来ます。慣れるまでに奮闘していますが、今までの手書き業務の時間を大切な子どもたちとの時間に充てられることは大きな喜びであり、技術の進歩に感謝するばかりです。

年長スポーツ参観

入園から今までの成長を見ていただこうと、年長さんのスポーツ参観を行いました。縄跳び対決や、全員出来るようになった逆上がりの披露、ドッジボール大会と、大変盛り上がり、親子、職員とみんなで喜び合う場となりました。保護者からの感想です。

・小さかった子供達が、それぞれがあんなに一生懸命に一つ一つ取り組んでいる姿に、胸がいっぱいになりました。最後の参観、とても楽しませて頂きました。ありがとうございます。

・競い合って成長する大切さを改めて思いました。そして競い合いながらも逆転のチャンスは快く許すつき組さん、可愛かったです。勝っても負けてもお互い拍手出来る姿に素晴らしいと思いました。園での様子が見られて嬉しかったです。子どもたちも保護者の参観をとっても喜んでいて、はりきっている様子がかわいかったです。卒園前に楽しい行事がたくさんあって、毎日わくわくしながら登園できています。ありがとうございます。



法話

鎮西保育園 園長
浄土真宗本願寺派
善照寺（行橋市） 住職



「香りにつつまれて」

鎮西保育園では毎朝、みほとけさまに手を合わせることから一日が始まります。「お香あげよののさま、いいにおい大好きなのさま…」と歌い、仏前にお香をお供えします。よい香りを仏さまに供養することであり、よい香りで身を清め、心を落ち着かせ、仏さまと向き合うことに大きな理由があり、芳香に満ちたお浄土を偲ばせていただく意味があります。

お香の起源はパミール高原に発するといわれ、暑熱による臭気を防ぐために香を焚き、あるいは直接身体に塗ったり、口に服用したといえます。その後、古代インドから仏教伝播と共に各地へ広がっていき、日本へ伝わりました。

私がお香の香りに魅了されたのは、親鸞聖人のご命日である御正忌報恩講へ本願寺に出動した際でした。仏花に用いられた水仙の香りが内陣一帯に漂い、焼香の香りがまた何ともいえないほどに心を落ち着か

せてくれました。

焼香をすることは、仏に供養し、けがれを除き、自身及び周辺一帯を清浄とし、その香を聞くことにより仏道精進の力を増すと教えていただきましたが、香りもまた大切なお荘厳でした。

若い人の間でお香やアロマを室内に焚くことが流行っていますが、香りには人の心に清浄心を起こさせる働きがあります。

親鸞聖人は、『浄土和讃』に、「染香人のその身には 香氣あるがごとくなり これをすなはちなづけてぞ 香光莊嚴とまうすなる」と、お念仏をよるこぶ人のことを「染香人」にたとえられ、「香光莊嚴」と讃えられています。

仏教には薫習という言葉があります。強い香りが身に染み付くように、法話やお経の縁にあうと、たとえ居眠りしていても毛穴から仏法が染み込んでいくという意味です。

よい香りのお香は自然に衣服に染み付き、その香りに染められた者は、さらに周囲によい香りを放つようになる。それと同様に、阿弥陀さまの智慧のはたらきを香と光にたとえられ、阿弥陀さまのはたらきによって知らず知らずのうちに お念仏をよるこぶ人からは自然とお念仏の香りが

高岡 宏信師

漂い、その周りにもお念仏の香りが移っていきます。念仏すれば念仏の香りがただよい、またそれが薫習されてゆく。お念仏をよるこぶ人は、自然と香りと光に莊嚴されているのです。

ですから、仏さまにお供えするお香は縁あるあらゆる人を浄土へと導けるように、優しく包み込むようなよい香りのものが好ましいですね。

私も四十歳を越え、気になるのは自分自身の匂いです。巷には様々な芳香剤や消臭グッズがあふれていますが、生きている以上、自ら体臭を無くすことも消すこともできません。自らよい香りを放ち、自ら香ることはできませんが、み教えを聞き続けるという縁によって香ることができののです。

敬愛中学・高校では仏さまのお話を聞く機会が設けられています。私自身も在学中に毎週仏教の授業を受け、愛楽会でご法話を聴聞させていただいたことが懐かしく思い出されます。居眠りもしましたが、そんな私にも阿弥陀さまのお慈悲が届いていたのですね。

お香の香りに包まれながら、自ら放つ様々な悪臭を恥じるばかりであります。

合掌

吹奏楽部・アンサンブルコンテスト九州大会 銀賞受賞

第46回九州アンサンブルコンテストが2月13日（土）宮崎市・メディキット県民文化センターで開催され、中学生のアンサンブルチームが出場し、銀賞を受賞しました。

吹奏楽部は今年度創部10周年を迎え、記念すべき10周年で初の九州大会出場を果たしました。

敬愛吹奏楽部創部10周年、コロナ禍で校内外の多くのイベントが中止になりました。そんな中、中学生のアンサンブルチーム（打楽器三重奏）が11月に開催された北九州アンサンブルコンテストで金賞を受賞。昨年に続き県大会への推薦をいただきました。12月の福岡県アンサンブルコンテストでも金賞を受賞。九州大会への推薦をいただきました。創部以来の快挙。九州大会に初出場でした。

コロナ禍では本番を迎えるにあたって宮崎での練習場探しに苦勞しましたが、浄土真宗の宗門校ということで本願寺宮崎別院のご厚意で別院を練習場としてお借りすることができました。練習場をお借りするにあたってご尽力いただいた皆様ありがとうございました。

吹奏楽部は創部以来「真摯であれ！謙虚であれ！」をモットーに「音楽のある学校、楽器の音色が響く学校を目指して」活動をしています。

「部活は教育活動の一環だから。挨拶をしたり、返事をしたり、当たり前のことが当たり前になるようになって、感謝を忘れず「ありがとう」が素直に言える人になつたら、きっといい演奏ができる」と信じて活動を続け、九州大会出場を果たすことができました。」と顧問の柏村先生は語っています。

応援、励ましをいただいた皆様をはじめ、たくさんの方のおかげで九州大会に出場することができました。本当にありがとうございました。これからも、さらにいい演奏ができるように活動をしていきます。皆様の応援、ご協力をお願いします。



卒業生からのメッセージ

平成29年度卒業 原田 佳代子さん



初めまして。平成29年度卒業生の原田佳代子です。私は高校卒業後、國學院大學法学部に進学し、現在大学に通いながら就職活動をしています。

昨年の春に新型コロナウイルスが流行し、就職活動や日常生活の先行きの見えない不安に、多くの学生が悩まされたことだと思います。私自身もそんな不安の渦中にいた時、幼い頃からの夢であったミス日本コンテストの募集が目に残りました。離れて暮らす家族に明るいニュースを届けられると思いエントリーした結果、有難いことに3千人の応募者の中から13名のファイナリストに選出させて頂きました。

このようなコンテストの話をすると、キラキラした順風満帆な人生を想像される方が多いかと思いますが。しかしかつての私は、今の姿とは正反対の内向的な性格で、学校に通う

ことができない時期もあり、母や先生には沢山苦労をかけていました。

そんな私が変わるきっかけになったのは、中学で生徒会執行部に入り、高校で一年間生徒会長を務めたことです。私はそこで顧問の先生や

たくさんの方に恵まれ、ひたむきに活動する中で大切な事を学びました。それは、自利利他（じりりた）の心です。これは仏教用語で、他人を幸せにする事が自分を幸せにもするという意味です。生徒の笑顔のため

のの仕事だと思い、学校行事の企画運営だけでなく、小さなことではトイレ掃除まで心を込めて行う日々。

心地良くトイレを利用する人の存在や、学校行事で見る生徒の笑顔や涙は、私に自信と幸せを与えてくれました。敬愛で過ごしたこの6年間は、予想もつかない出来事の連続でした。そしてその裏には、一人一人と真剣に向き合い多くのことを教えてくださった先生方の存在や、どんな私も見放さずに一番の味方であり

続けてくれた両親の存在がありました。この学校を卒業するとき、一番強く胸にあったのは、そんな多くの支えへの感謝の気持ちであり、将来恩返しができるように、自分の未来

を切り拓いて行こうという決心でした。今でもその気持ちは変わらず私の原動力となっています。最後に、私が教えて頂いた言葉をご紹介します。

「心が変われば行動が変わる 行動が変われば習慣が変わる 習慣が変われば人格が変わる 人格が変われば運命が変わる」

生きていくと、上手くいかないことも「なぜ自分ばかり…」と思うこともあるでしょう。しかし全ては自分の心次第で変えることが出来ると私は信じています。愛する母校の後輩

たちには、是非前向きに、そして楽しく、自分の人生を切り開いて行って欲しいと願っています。



(C) 一般社団法人ミス日本協会

高2女子 ダンス発表会

3月4日(木) 高校2年生女子によるダンス発表会が行われました。2学期から創作ダンスを開始し、テーマや音楽、振り付けなどを自分たちで決め、当日のために練習に取り組みしました。最優秀賞を目指すことはもちろん、見てる人々たちを感動させ、楽しんでもらうことを目標に、本番では各チームの個性を存分に発揮しました。今年はコロナウイルス感染予防のため保護者の観覧はありませんでしたが、会場全体が一体となって盛り上がった発表会になりました。

(結果)



○最優秀賞

Twings (2年4組)

○優秀賞

IZU(イジュー) (2年3・4組)

○努力賞

Magie (2年2組)

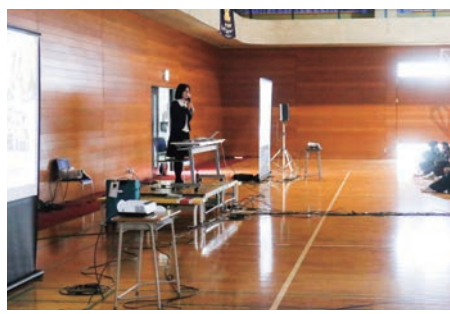


行事紹介

たかまつななSDGs講演会

12月10日(木)に、たかまつななさん(株式会社笑下村塾 取締役)をお招きして、SDGs講演会を行いました。コロナ禍での講演会ということ、高校2年生・中学2年生は体育館、その他の学年は各教室からオンラインで視聴する形式でした。講演会では、たかまつさんが世界で見てきたことをもとに、今でも人身売買が行われているなどの話がありました。講演会の途中では、たかまつさんオリジナルのSDGsカードゲームを行い、楽しみながらSDGsに関する理解を深めました。

今回の講演会は、探究活動を行っていた生徒たちの希望が実現されたもの。ねを経緯を思いが伝わり、たかまつさん、たかまつさんへの質問の時間が取られ、生徒たちからの様々な質問に、世の中を変えるために必要なことは何かを熱意を持って伝えられていました。この講演会をきっかけとして、少しずつ行動に移して、よりよい未来を築いていきましょう。



人権講演会

12月10日(金)、講師にROSE(宮崎猛志)さん(LGBTQ支援任意団体「In me」代表理事)をお招きして、中学1年生と高校1年生は鎮西別院本堂で、それ以外の学年は教室で中継画面を通して、さらに保護者の方々にもYouTube配信により人権講演会を行いました。

テーマは「思いやりの心をはぐくむー一人ひとりが自分らしく」。心の性が女性であることに気づき、トランスジェンダー当事者としてカミングアウトするに至る経緯や思いをお話いただきました。講演会の中で歌われたオリジナル曲「告白(comingout)」を聞きながら、一人ひとりがかけがえのないのちを大切に、自分らしく生きることができる社会の実現を目指し、自分自身にできることから行動していきたいとの思いを新たにしました。

また、LGBTQの問題に関心のある高校1年生を中心に、本校生徒のLGBTQに対する認識をアンケート調査したり、ROSEさんから提起されたLGBTQに関わる社会問題への解決策などを発表したりして理解を深めることができました。

誰もがそれぞれに悩みを抱えながら、支え合い、助け合って生きています。自分の価値観だけにとらわれるのではなく、相手を認め受け入れていくところにより良い関係が築けるのでしょうか。



卒業生の活躍

これからも、立川選手のご活躍を応援しています。

立川選手は、敬愛中学校に入学後、柔道部に入学し、厳しい練習を重ね、世界大会出場をはじめ、様々な大会で結果を残してきました。



読売新聞社提供

平成26年度卒業 立川莉奈選手
12月16日(水)に卒業生である立川選手が、北九州市門司区のJR門司港駅前、県警門司署が主催したイベントに講師役として出演されました。写真は参加したJR駅員の方々に護身術を教えている様子です。

マイプロジェクトアワード2020 九州 Summit 出場

2月21日(日)にマイプロジェクトアワード九州 Summit が開催され、本校の生徒3名が出場しました。このアワードは、日本最大の「高校生の学びの祭典」と呼ばれています。

今年は4800のプロジェクトの参加がありました。この日は、九州からの代表生徒たちが一同に集まり、それぞれのマイプロジェクトを発表し、学びを深めました。3名とも堂々と発表をしていました。全国 Summit へは進むことはできませんでしたが、これまでの取り組みを通して、自分自身の学びを深めることができたようです。

